

A X - 3 , B X - 3

民 法

平成13年4月、Aは、Bからその所有する土地（以下、「甲地」という。）を購入し、代金全額を支払うとともに甲地を占有するに至ったが、BからAへの移転登記はされないままであった。平成14年3月にBが死亡したため、同年10月、Bの唯一の相続人であるCは、甲地の登記名義をBからCに移転した。

以上の事実を前提にして、次の各小問に答えよ（各小問は独立した問いとする。）。

- 1 平成15年3月、Cは、Dに対する債務の代物弁済として、甲地の所有権をDに譲渡し、登記名義をCからDに移転した。他方、平成25年5月、Aは、登記を調べたところ、甲地の登記がD名義となっていることに気付いた。このとき、Aは、甲地につき10年の取得時効を理由に、Dに対して甲地の所有権を主張できるか。
- 2 平成25年3月、Cは、甲地をEに売却し、登記名義をCからEに移転した。このとき、Aは、甲地につき10年の取得時効を理由に、Eに対して甲地の所有権を主張できるか。

(100点)

A X - 3 , B X - 3

刑 法

A (男性, 50歳) は, 逃げた飼い犬を探すために, 近所の家の庭を堀越しに覗き込んでいたところ, 通りかかった甲 (男性, 40歳) が A の行動を不審に思い, 「何をしている。」と言いながら, A の肩をつかんで強く引いたため, A は転んでしまった。A は腹を立て, 「何をする。」と言って立ち上がりながら, 持っていた犬用のリード (引き紐) を甲に向かって振り上げたので, 甲は慌てて走って逃げたが, A はこれを走って追いかけて, 約100メートル先の住宅建築現場前で甲に追いつき, 甲の上着の裾をつかんだため, 甲はその場に倒れてしまった。このままでは A に捕まってしまうと思った甲は, そばに落ちていた木製角材の切れ端 (5センチメートル角, 長さ約60センチメートル) を拾って A の頭部を殴りつけた。A は, 甲に殴られた際, 頭部に加療3週間を要する傷害を負った。

甲の罪責について論ぜよ (特別法違反の点を除く。)

(100点)